

(麦)

福岡大城農業協同組合
南筑後普及指導センター

水稲の収穫も終わり、麦播種の時期が近づいています。24年産麦の栽培のポイントをお知らせします。

1. ミナミノカオリについて（穂揃い期追肥のお願い）

平成23年産ミナミノカオリの、タンパク質含有率は、12.7%でした。

（※栽培面積1ha以上の生産者で、2等以上のものの平均値です。）

各地区ともに、ミナミノカオリのタンパク質含有率の基準値である、11.5~14.0%を満たしていました。穂揃い期追肥が徹底されたためと思われます。

ただし、生産者間の差が大きく、基準値を満たしていない方もいらっしゃいます。

今後もタンパク質含有率確保のため、追肥一発肥料（グッドIB506）を使用した上で、穂揃い期追肥の徹底をお願いします。

2. 石灰資材の施用およびトビムシ類の対策について

小麦の生育に適した土壌 pH は、6.0~6.5 です。pH が低いと、酸性障害を引き起こします。また、トビムシ類による出芽不良が発生したほ場では、pH が低い傾向があります。 pH が低いほ場、前年石灰を散布していないほ場は、炭酸苦土石灰または生石灰を 10a あたり 100kg 施用し、pH 矯正を行いましょう。

また、例年トビムシ類による被害は拡大している傾向です。上記 pH 矯正とともに、下記農薬を必ず使用します。

対象病虫害	薬剤名	処理方法
ヤギシロトビムシ	アドマイヤー水和剤 ※劇物	乾燥種子重量の0.15%を粉衣する (種子10kg当たり15g)
裸黒穂病 なまぐさ黒穂病	ベンレートTコート	乾燥種子重量の0.5%を粉衣する (種子10kg当たり50g)

※大麦にアドマイヤー水和剤は使用できません。

3. 播種について

小麦の播種適期は 11月20日～12月5日、大麦は11月25日～12月5日です。10aあたりの播種量は、適期播種の場合、小麦で6～7kg、大麦は5kgです。23年産は降雨により収穫不能となったほ場がありました。そのため、早播きを行いたいという話を聞きますが、以下の点からお勧めしません。

★早播きの利点	<ul style="list-style-type: none">・10日程度早く播種することで、成熟期が2～3日早くなる。・早く収穫できるため、梅雨入り前に収穫できる可能性がある。
★早播きの欠点	<ul style="list-style-type: none">・初期生育が旺盛で、無効分けつが多くなる。・スズメノテッポウなど、雑草の発生が多く、雑草害を受けやすい。・第1回目追肥が早くなり、結果的にタンパク質含有率が下がる。・早く出穂するため、凍霜害を受ける可能性が上がる。

4. 大豆後作の栽培管理について

大豆後作の麦づくりは、水稻後作の場合に比べ地力窒素の影響が大きく、通常の栽培管理では倒伏を招きます。倒伏すると、品質が大きく低下するので、倒さない麦づくりを心掛けましょう。

●うす播きが基本

- ・播種量は水稻後作の場合より1kg減らします。具体的な播種量は、適期播種の場合、10aあたり水稻後作では6～7kg、大豆後作では5～6kgの種子を播きます。適期播種ができず、作業が遅れた場合のみ、播種量を増やします。

●基肥の減肥

- ・水稻後作にくらべ、10aあたりの基肥量を半分にし、過繁茂による倒伏を防ぎます。

＜シロガネコムギ＞

(kg/10a)

施肥例	肥料名	基肥	追肥1 1中～下	追肥2 2下	実肥 穂揃い期
1	ちくごのめぐみ422	40	—	—	—
	〃 (大豆後)	20			
	グッドIB200	—	35		
2	ちくごのめぐみ422	40	—	—	—
	〃 (大豆後)	20			
	NK7号 又は BB606	—	30	15	

＜ミナミノカオリ＞

(kg/10a)

施肥例	肥料名	基肥	追肥1 1下～2上	追肥2 2	実肥 穂揃い期
1	ちくごのめぐみ422	40	—	—	10 (硫安)
	〃 (大豆後)	20			
	グッドIB506	—	40		

＜はるしずく＞

(kg/10a)

施肥例	肥料名	基肥	追肥1 1下～2上	追肥2 2下	実肥 穂揃い期
1	ちくごのめぐみ422	30	—	—	—
	〃 (大豆後)	20			
	NK7号 又は BB606	—	20		

ミナミノカオリ作付者の方は穂揃い期の実肥を徹底しましょう！

※シロガネコムギ・ミナミノカオリ・はるしずく共通の注意点について

- (1) シロガネコムギとミナミノカオリでは、追肥の時期が異なります。第1回目追肥は、シロガネコムギで1月中旬～下旬頃、ミナミノカオリでは少し遅い1月下旬～2月上旬頃（できれば2月上旬）に行います。第2回目追肥は、茎立期（2月末～3月始）前に終わるようにします。
- (2) 倒伏しないよう、施肥量は地力により加減してください。
- (3) ミナミノカオリの穂揃い期追肥は、赤かび病防除と同時の、尿素による葉面散布も可能です。

5. 雑草対策

各地でハーモニー剤が効かない、抵抗性スズメノテッポウが確認されています。ハーモニー剤のみの使用は避け、土壌処理剤と合わせた体系で防除しましょう。また、**播種前雑草が多い場合は、バスタ液剤、ラウンドアップなどを散布してください。**播種前雑草が残ると、大きく生育するため、麦が減収します。

	薬剤名	処理時期	10a 使用量	留意事項
※	バスタ液剤	播種前 または 播種後麦出芽前	300～ 500ml	播種後、雑草発生が早い場合 必ず土壌処理剤も散布
土 壌 処 理 剤	ボクサー（乳剤）	播種後～麦2葉期	400～ 500ml	降雨の前後は使用しない 麦の出芽後でも散布可
	クリアターン細粒剤F	播種直後～麦出芽前	4～5kg	播種後はできるだけ早めに 散布する
	ガレスG（粒剤）	播種後～麦2葉期		降雨の前後は使用しない
	サターンバアロ粒剤	播種後～麦4葉期 (スズメノテッポウ1.5葉期まで)		麦の出芽後でも散布可 (ただし効果は劣る)

※注意点

- (1) 液剤の希釈水量は、10aあたり1000l 使用します。
- (2) **土壌処理剤の中には、麦出芽後の散布も可能なものがありますが、播種後できるだけ早く処理した方が、除草効果は安定します。**
- (3) カズノコグサの多い場合は、土壌処理剤+1月上旬～下旬のハーモニー75DF水和剤の薬剤体系防除と土入れを組み合わせで防除します。

農薬の安全使用と飛散防止対策を徹底しましょう！